

南山大学大学院  
入学試験  
出題の意図および解答例

人間文化研究科  
キリスト教思想専攻(博士前期課程)  
宗教思想専攻(博士後期課程)

2026年度・夏季

NANZAN  
UNIVERSITY

## 目 次

### 《キリスト教思想専攻（博士前期課程）》

基礎知識に関する筆記試験（神学領域） .....	1
外国語に関する筆記試験（英語） .....	2

宗教思想専攻の当該年度“出題の意図および解答例”はありません

### <出題の意図>

大問1および2は本専攻神学領域での研究の前提となる基本的な知識や理解について問う。そのうち大問2の事項説明では、入門書レベルの一般的な理解を適切に説明できるかが問われており、独創的なアイデアや網羅的論述は求めていない。受験者それぞれの狭義の専門領域だけに限らず、神学や聖書学に関わる広い分野にわたって基礎的知識を身につけてもらいたい。大問3は自分の研究テーマの意義を客観的に説明できるか、また、入学後の研究に向けた準備や見通しが十分であるかを確認するものである。

### <解答例・評価のポイント>

1. キリスト教神学と聖書学の関係についての論述である。「どんな観点から述べてもよい」という設問であるから、各人の専門知識や関心を強く反映してもよいし、ごく一般的な理解を述べる内容でもよい。聖書の理解と研究は古くから神学的いとなみの中核であるが、近代以降の聖書学(本文批評)の発展についてはとくに言及する必要がある。

2. 事項説明は知識と理解の正確さを重視して採点する。

解答例(b)三位一体論とは、父・子・聖霊の三つが一つの神であるというキリスト教の根本的な教義である。三であり一という神秘を説明するために、とくに4世紀から5世紀には公会議における議論と教父たちの著作により用語と論理が洗練され、「三つの位格(hypostasis, persona)、一つの実体(あるいは本質)」という定式が生み出された。論争の過程で、子なるキリストと聖霊を被造物とする立場や、三つの位格を単なる役割や様態の差にとらえる立場を斥けることを通じて、正統的な理解が形成されていった。——さらに具体的な記述があればなおよいが(教父の人名、公会議の名称、東西教会の違い、異端的主張の詳細など)、上記の一般的説明で十分に及第点である。

(e)「Rerum Novarum(レーラム・ノヴァールム)」は、レオ13世、1891年(19世紀末)、回勅、カトリックの社会教説などのキーワードを含む論述が期待されている。(f)「宗教と戦争」は特定の事例や視点を前提としていないので、各自で論点を設定して述べればよい。ただし、抽象的・理念的な内容だけで具体的な戦争の事例にふれない解答や、逆に、時事問題の解説に終始して神学的観点をまったく欠く解答では十分な点数を得ることはできない。他の事項についても類似の傾向であるから、個別の解答例と評価のポイントは省略する。

3. 設問にある「先行研究の状況」については、研究者の名前や著作名などをあげて具体的に提示できることが望ましいが、その点が不足していても、テーマ設定や方法論が説得的であれば高い評価を得られるはずである。

以上

### <出題の意図>

本専攻での研究の前提となる英語の読解力を問う。今回はヨハネによる福音書に関する研究書から、研究の目的と意図を一般的に述べた箇所を出題した。神学領域、哲学領域、宗教学領域のいずれの受験生であっても、十分に読みこなせてほしいレベルの英文である。具体的な試験対策としては、自分の関心のある主題や必要な分野の入門書を素材に、一定の分量の英文を一定の時間内に逐語訳する練習を入念に積み重ねてもらいたい。

### <評価のポイント>

第一に、それほど多くない分量であるから、日本語の訳文は（途中で自信のない箇所を含んでいてかまわないので）時間内に最後まで作成してもらいたい。第二に、一般的な英語の語彙と文法を理解という観点から、構文の大きな取り違えと基本単語の不正確な訳は減点対象である。第三に、宗教に関する基本的な語彙（今回の英文では Christianity, faith, religious dialogue, religious diversity, the Fourth Gospel など）について、とくに正確な訳語が望まれる。

以上

**発行：南山大学 入学センター**

**名古屋市昭和区山里町 18 番地**

Phone : (052)832-3119

E-mail : [nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp](mailto:nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp)

U R L : <https://www.nanzan-u.ac.jp/>